

中学校

平成 16 年 度

# 教育研究員研究報告書

音

楽

東京都教職員研修センター

## 目 次

研究の概要	
1 研究主題設定の理由	2
2 研究のねらい	3
3 研究構想図	5
研究の内容と方法	
1 第1学年の生徒一人一人に応じた楽しい音楽学習を目指して	6
2 研究の内容	8
3 研究の方法	8
研究の具体例	
1 ミュージックポイント	9
2 ミュージックトレーニング	10
3 ミュージックエッセンス	11
実践事例 検証授業より	
実践事例1 多様な表現を取り入れた合唱の指導	12
実践事例2 ゲストティーチャーと取り組む和楽器の指導	15
実践事例3 パソコンを活用した創作の指導	18
実践事例4 曲想の変化を感じ取って聴く鑑賞の指導	21
研究の成果と今後の課題	
1 研究の成果	24
2 今後の課題	24

## 研究主題

生涯にわたって個性豊かに生きるための基盤となる音楽学習の充実  
- 第1学年の生徒一人一人に応じた楽しい音楽学習を目指して -

### 研究の概要

#### 1 研究主題設定の理由

中央教育審議会の答申（「初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について」平成15年10月）は、現行の学習指導要領の実施状況とその課題に触れ、子どもたちに求められる学力としての「確かな学力」とは、知識や技能はもちろんのこと、学ぶ意欲や自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力等まで含めたものであるとしている。そして、「確かな学力」をはぐくむためには各学校における創意工夫を生かした特色ある取り組みを充実させ、生涯を通じて学び続ける学習意欲を身に付けさせることが必要であると提言した。今後、「確かな学力」を育成し、学習指導要領のねらいを実現するためには、各学校において、児童・生徒一人一人の良さや可能性を伸ばし、個性を生かす教育の一層の充実を図ることが求められている。

そこで、生徒一人一人の良さや可能性を伸ばし、生涯にわたって音楽を愛好する心情をはぐくむためには、生徒自らが音楽を創造する主体となって、楽しいと感じることのできる指導の実現を目指すことが重要であると考え、「生涯にわたって個性豊かに生きるための基盤となる音楽学習の充実」を研究主題として設定した。

さらに、夢と希望を胸に中学校に入学した1年生の生徒が、小学校6年間の音楽科で身に付いた力を伸長することが、生涯にわたって音楽を愛好する基盤につながっていくと考えた。しかし、1年生の生徒は、思春期を迎えるとともに素直に感情を表現することに敏感になってくる傾向がある。2、3年生では音楽の授業が年間35時間になる実態もある。これらのことを考慮して、第1学年において、生徒自身が音楽を創造する主体であることを自覚でき、個に応じた指導、楽しい授業をつくっていくことができるように、副主題「第1学年の生徒一人一人に応じた楽しい音楽学習を目指して」を設定して、研究を進めていくこととした。

学習指導要領音楽科第1学年の目標は以下の3点である。

- (1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽への興味・関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。
- (2) 音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、基礎的な表現の技能を身に付け、創造的に表現する能力を育てる。
- (3) 多様な音楽に興味・関心をもち、幅広く鑑賞する能力を育てる。

この目標に基づき、次のように生徒一人一人に応じた指導の工夫を行っていくことにした。

生徒が学ぶ意欲をもつことができるよう、45時間の枠組みで第1学年の生徒の発達段階や特性に十分配慮した指導計画を工夫して作成すること。

音楽活動の基礎的な能力を育成できるよう、音楽の諸要素の働きや表現の技能を身に付けるための継続的な教材の工夫をすること。

生徒自ら課題を見付け、主体的に判断し、行動できるような多様な音楽学習を設定し、音楽の楽しさを生徒自身が感じ取ることができるような教材を開発すること。

また、本研究では、目指す生徒像を次のようにとらえた。

ア 多様で幅広い音楽への興味・関心をもち、主体的、意欲的に音楽活動に取り組むことができる生徒。

イ 楽しく音楽活動に取り組み、身に付いた能力を生涯にわたって発展的に生かそうとすることのできる生徒。

このように、音楽学習の充実を図るために教師が指導の方法を工夫することによって、生涯にわたって個性豊かに生きるための基盤が形成され则认为、本研究を進めることとした。

## 2 研究のねらい

本研究のねらいは、「多様で幅広い音楽への興味・関心をもち、主体的、意欲的に音楽活動に取り組むことができる生徒」、「楽しく音楽活動に取り組み、身に付いた能力を生涯にわたって発展的に生かそうとすることのできる生徒」を育成することである。そのために、どのような力を身に付けることが必要なのか。研究主題に迫るためには、その力を明確にし、研究を進めていくことが重要であると考え。

そこで、音楽科として生徒達に確実に身に付けていきたい力を、次のようにとらえた。

本研究で確実に身に付けたい力とは、

多様な音楽活動において、音楽を形作っている諸要素を感受することにより育成される基礎的な能力。

ととらえる。

「音楽を形作っている諸要素を感受する」とは、音色、リズム、旋律、和声を含む音と音とのかかり合い、形式などの構成要素、速度、強弱などの表現要素による構造的側面を知覚し、雰囲気、曲想、美しさ、豊かさといった、その音楽固有の感性的側面を感じることでとらえていく。

ここでいう「基礎的な能力」とは、諸要素が生み出す力をイメージをもって感じ取る能力のことであり、すなわち、生涯にわたって楽しく充実した音楽活動ができるための、基になる能力である。

そのため、45時間の枠組みで第1学年の生徒一人一人に、確実に身に付けたい力をはぐくむために、次の3つの視点を関連付けながら、研究を進めていくこととした。

その第一は、指導方法の工夫である。

音楽を創造する主体が生徒自身であることを自覚し、生徒が楽しいと思う授業を実現していくためには、45時間の枠組みで第1学年の生徒の発達段階や特性に十分配慮して、生徒が学ぶ意欲をもつことができる指導計画を作成することが重要である。

そのためには、次の3つのことを解決していくことが必要である。

生徒の思いや願いが多様な学習活動として指導計画に網羅されること。

毎時間「自分は何を学ぶのか」を生徒自らが理解して、学習のねらいを把握すること。  
学習のねらいにそって、音楽活動が音楽を形作っている諸要素と結び付いた学習になっていること。

以上について、3つのことを解決してことが教師に求められていると考える。そこで、その解決の1つの方法として「ミュージックポイント」を設定し、指導の工夫を行うこととした。

第二は、基礎的な能力を養うための教材の工夫である。

楽しい音楽の授業とは、確実に身に付いた表現や鑑賞の能力をさらに十分に生かすことであり、「基礎的な能力」とは、生涯にわたって楽しく充実した音楽活動ができるための、基になる能力である。したがって、基礎的な能力を養うためには、音楽を形作っている諸要素を感受する能力を身に付け、毎時間の授業で身に付いた力を次の学習に生かすことが重要である。

そのためには、表現（歌唱、器楽、創作）及び鑑賞の各活動において、授業の導入時に短時間で継続的に指導できる「ミュージックトレーニング」を設定し、教材の工夫を行うこととした。

また、本研究では、基礎的な能力を、音楽についての知識や、楽器の基本的な奏法、及びソルフェージュの能力としてとらえられるのではなく、常に、音楽の諸要素を感受する能力と結び付けてとらえていきたいと考えた。

第三は、音楽の諸要素を感受する能力を高めるための教材の開発である。

音楽の諸要素を感受する能力を高めるためには、感じた音楽を音楽の諸要素と結び付けるとともに、曲想や音楽のもつ美しさを、イメージをもって感じることができる教材の開発が必要である。生徒が音楽学習を「楽しい」と感じることができるようには、生徒自らが興味・関心をもって学習に取り組むことができる教材を開発していくことが重要である。

そこで、生徒自らが音楽の諸要素に気付き、主体的に音楽的な感性を磨き、一人一人の生徒の音楽の諸要素を感受する能力が身に付くことを目指して「ミュージックエッセンス」を設定し、教材の開発を行った。

45時間の授業において、毎時間、この3つの視点を関連させ、題材の目標を達成することが重要であり、この3つが単独で進められるものではない。

題材の目標を達成し、生徒一人一人に何を身に付けることが必要なのか明確にして、3つの視点から、検証授業を通して、研究を進めていくこととした。

身に付けたい力は、検証授業において、表現（歌唱、器楽、創作）及び鑑賞の学習活動を通して、追究することとした。



## 研究の内容と方法

### 1 第1学年の生徒一人一人に応じた楽しい音楽学習を目指して

#### (1) 調査より

「楽しい音楽学習」とはどのようなものであろうか。それぞれの学習経験を基盤とした、第1学年の生徒たちの受け止め方について教育研究員の所属校において調査を実施した。また、入学して間もない時期でもあり、記述式にして生徒の意見を理解できるようにした。

対象人数	第1学年 生徒557名
実施時期	平成16年5月～6月
調査目的	第1学年の生徒一人一人に応じた楽しい音楽学習の手だてを探る

今までの音楽の授業で「楽しい」と思ったことは何ですか（複数回答可）

(1) 歌を歌ったとき	290人(52.0%)
(2) 楽器を演奏したとき	296人(53.1%)
(3) 音楽を聴いているとき	240人(43.0%)
(4) 音楽をつくって表現したとき	36人(6.4%)
(5) その他	24人(4.3%)

上記の理由として、自由記述に記されていたものは、主に次のとおりである。

- (1) 音楽の授業で歌を歌ったときに「楽しい」と思ったこと。
  - ア 小学校で学習したこと 「小学校の行事や卒業式で歌った合唱」
  - イ 中学校で学習したこと 「小学校よりも難しい歌を歌ったとき」、「校歌を歌って」
  - ウ 音楽の諸要素のこと 「音が重なり合ったとき」、「美しい声の響きを感じたとき」
  - エ 技能のこと 「高い声が出たとき」、「声をしっかりと出して歌ったとき」
- (2) 音楽の授業で楽器を演奏したときに「楽しい」と思ったこと。
  - ア 音楽の諸要素のこと 「速いところが演奏できたとき」、「力強く演奏できたとき」
  - イ 技能のこと 「難しい曲を練習してできるようになったとき」、「いいなあと思っただ音で演奏できたとき」、「違う楽器の音が重なって演奏できたとき」
- (3) 音楽の授業で音楽を聴いているときに「楽しい」と思ったこと。
  - ア 音楽の諸要素のこと 「好きなメロディが何度も繰り返して出てくるとき」、「おもしろい音の動きが出てくるとき」、「いろんな種類の声や楽器を使った音楽を聴くことができたとき」
- (4) 音楽の授業で音楽をつくって表現したときに「楽しい」と思ったこと。
  - ア 小学校で学習したこと 「海をテーマに曲を作ったとき」、「休み時間という曲をリコーダーで作ったとき」

(5) その他

ア 小学校で学習したこと 「楽器を作ったとき」、「みんなで音楽をやるという事自体が楽しい」、「音楽を聴くとリラックスできる」

(2) まとめ

第1学年の生徒557名に調査した時期が、平成16年5月～6月であったため、生徒にとって音楽学習が「楽しい」と感じる内容は、小学校の学習も含まれており、小学校6年間の音楽学習のつながりをもって、把握することができた。

調査では、表現（歌唱、器楽、創作）と鑑賞の各活動において、5割の生徒が楽しいと感じている回答であった。生徒が「楽しい」と思っている概念は、自由記述であるため、一部の生徒ではあるが、具体的な内容が示されているため分析を試みた。その結果、生徒が音楽を楽しんでいるのは、自分の経験を通して、充実感や達成感を感じたときであった。例えば、「自分の思うような声で歌った」、「違う楽器の音の重なりを感じて演奏できた」、「作曲した」など、主体的に音楽活動にかかわっているときの状況がある。また、「高い声を出した」、「難しい曲を演奏できるようになった」など、身に付いた技能を生かして、自分の思いや学習の目標が達成できたときの状況もある。鑑賞については、「いろいろな声や楽器を使った音楽を聴くこと」があげられ、多様な音楽を聴くことについて述べられている。

以上の結果から、個々の生徒が「楽しい」と感じる概念は、それぞれ違うということを新たに認識するとともに、生徒が音楽の学習を「楽しい」と感じる時は、生徒が主体的に音楽とかかわりを持ち、表現や鑑賞の多様な活動を通して、音の重なりや美しい響きなど音楽の諸要素をとらえ、音楽へ興味をもったり、自分の知らなかった世界を実感したりしたときであることが分かった。したがって、生徒自らが「楽しい」と感じる授業を目指すためには、音楽の諸要素を感受する能力を育成する観点から指導を行っていくことが重要であり、生徒に音楽の楽しさを実感できる、学習の場を設定することがあることが分かった。そして、発表に対する苦手意識があったり、技能に自信が無かったりするなど、楽しさが体験できずにいる生徒へも考慮していかなければならない。

以上をふまえて、授業を通して、音楽の諸要素を感受する能力との結び付きをもって、次の観点から授業を進めていくこととした。

毎時間、「本時の目標は何であるか」を生徒自ら考え、主体的に授業に参加することができるよう「本時の目標をひとつ」にして、生徒が主体的に音とかかわり、生徒自らが本時の目標に気付くことのできるような指導の工夫が必要であること。

毎時間、生徒が自信をもって自らの思いを音楽で表現することができるよう、題材の目標にそって、生徒の実態に応じた教材の工夫が必要であること。このことを、生涯にわたって音楽を楽しむ基盤となる基礎的な能力を養う一つの方法としてとらえていく。

一人一人の生徒が「音楽学習を楽しんでいる」と実感するためには、50分の授業において、毎時間、生徒自らが多様な音楽活動を体験することができる教材の開発が必要であること。これら3つの観点から、楽しい音楽学習を目指して授業を進めることとした。

## 2 研究の内容

本研究では、研究主題に迫るためには、第1学年の授業を通して年間45時間の中で、1つの題材のみではなく、毎時間50分の授業の中で楽しい音楽の授業を追究していくことが重要であると考えた。生徒のアンケートから分かるように、個々の生徒の「楽しい」という概念がそれぞれに異なっているので、多様な音楽活動の体験を通して「楽しい」という思いをもたせることが必要がある。そこで、多様な音楽活動を体験できるよう、一人一人の生徒自らが音楽の諸要素を知覚し、それらの働きによって生まれる曲想や美しさをイメージをもって感じ取る能力を育むことが重要である。例えば、クイズやゲーム感覚を生かした問いかけなど、生徒が意欲をもって取り組むことのできる指導の工夫により、確実に音楽を形作っている諸能力を感受する能力を身に付けさせたいと考え、次の3つの視点から研究を進めることとした。

## 3 研究の方法

### (1) 指導方法の工夫「ミュージックポイント」

音楽を創造する主体が生徒自身であることを自覚し、生徒が楽しいと思う授業を実現していくためには、毎時間、「本時の目標は何であるか」を生徒自ら考え、主体的に授業に参加することができるよう「本時の目標はひとつ」にして、積み重ねていく指導の工夫として「ミュージックポイント」を考案した。また、授業時間数の充実を図ることができるよう考慮するとともに、1つの題材だけではなく、毎時間50分の授業の中で「ミュージックポイント」を設定することができる年間指導計画を作成し、楽しい音楽の授業を目指していった。

### (2) 基礎的な能力を養うための教材の工夫「ミュージックトレーニング」

生徒自らが「楽しい」と感じる授業を実現するためには、毎時間、生徒が自信をもって自らの思いを音楽で表現することができるよう、基礎的な能力を身に付けることが必要である。

そのために、教材の工夫として「ミュージックトレーニング」を考案した。「ミュージックトレーニング」は、題材の目標にそって、継続的にリズムや旋律の聴取、演奏などを短時間に行う活動である。その教材の工夫として、生徒の実態に応じて段階的に作成されたオリジナルの教材を作成していくものである。本研究での「ミュージックトレーニング」は、音楽の知識や楽器の基本的な奏法、及びソルフェージュの能力などととらえるのではなく、常に、音楽の諸要素を感受する能力と結び付きあっていくものであり、生徒が基礎的な表現の能力を身に付ける一つの方法としてとらえていく。

### (3) 音楽の諸要素を感受する能力を高めるための教材の開発「ミュージックエッセンス」

一人一人の生徒が「音楽学習を楽しい」と実感するためには、50分の授業において、毎時間、生徒自らが体験できる多様な音楽活動が重要である。多様な音楽活動とは、歌唱、器楽、創作などの表現活動や鑑賞の活動が偏ることなく展開され、音楽の諸要素を感受する能力は高まっていくものである。そこで、「ミュージックエッセンス」を考案し、音楽の諸要素を感受する能力を高めるための教材を開発することを目指していった。

以上、指導の工夫「ミュージックポイント」、教材の工夫「ミュージックトレーニング」、教材の開発「ミュージックエッセンス」の3つの観点から、常に、音楽を形作っている諸要素を感受する能力と結び付き、検証授業を展開していくこととする。

## 研究の具体例

### 1 ミュージックポイント

「ミュージックポイント」は、毎時間、「本時の目標は何であるか」を生徒自ら考え、主体的に授業に参加することができるよう「本時の目標はひとつ」にして、生徒が主体的に音とかかわりをもつことができる指導の工夫である。毎時間50分の授業の中で「ミュージックポイント」を取り入れて、生徒自らが本時の目標に気付くことができるよう、音楽の諸要素を感受する能力と結び付けて指導の工夫を行い、楽しい音楽の授業を目指していった。

授業における指導の工夫した具体例を次の表にまとめた。

本時の目標及び指導の工夫(例)	生徒の様子
<p>目標：動きを伴う歌唱表現に挑戦しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「さとうきび畑」の歌詞の内容に合わせて生徒自らが、視線や手の動きなど、体の向きを考えて表現できる指導の工夫。</li> <li>・毎時間、ひとつの目標を積み重ねた指導により、主体的に動きながら歌うことを通して、楽曲に対するイメージがふくらんだ。</li> </ul>	
<p>目標：三味線で「水の流れ」を演奏しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が、三味線の音の特性を感じ取り、基本的奏法を学ぶことができる指導の工夫。</li> <li>・、の糸を同時に弾く奏法や の糸のみを使ってスクイ・ハジキの奏法を互いに教え合い、技能を習得していく指導の工夫により、生徒は三味線の演奏を楽しんだ。</li> </ul>	
<p>目標：コンピュータを活用して作曲しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコンを使って、詩の内容にあった旋律をつくることのできる指導の工夫。</li> <li>・生徒は、試行錯誤していく過程で主体的に音楽とかかわることによって、意欲的に音づくりに取り組んでおり、楽しんで自分の思いを音に生かしていた。</li> </ul>	
<p>目標：オーケストラの響きを鑑賞しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器の音色とその変化の組み合わせの働きと、楽曲の曲想とのかかわりを意識して、聴き取ることができる指導の工夫。</li> <li>・生徒が主体的に曲のイメージをつかんで、オーケストラの豊かな響きを感じ取って、楽しく鑑賞していた。</li> </ul>	

## 2 ミュージックトレーニング

「ミュージックトレーニング」は、題材の目標にそって、音楽を形作っている諸要素を受容する能力と結び付けて、生徒の実態に応じた教材の工夫を行うものである。毎時間の授業において、生徒の実態に応じたオリジナル教材やワークシートを作成し、生徒に身に付いた力が次の学習に生かすことができる指導を考えた。具体例は、次の表のとおりである。

基礎的な能力を養うための教材の工夫(例)	身に付けたい力
<p>&lt;合唱&gt; ○I度のハーモニーによるあいさつの教材。 ○生徒が主体的に呼吸について把握する教材。 ○生徒が互いの声を聞き合って歌う教材。(譜例①)</p>	<p>他の声部とのかかわりや全体の響き感じ取って、合唱表現している。</p>
<p>&lt;器楽&gt; ○三味線の音の特性を生徒が主体的にとらえるために、複数の和楽器(箏・三味線・尺八)の音を聴き、その中から三味線の音を選ぶ教材。</p>	<p>三味線特有の音の特性や奏法に気を付けて、表現している。</p>
<p>&lt;創作&gt; ○簡単な8拍のリズム聴音として、3種類のリズムを作成し、段階的に詩にあった、自然なリズムに気付くことができるリズム譜に書く教材。(譜例②)</p>	<p>詩のもつ特性を感じ取って、旋律の創作をしている。</p>
<p>&lt;鑑賞&gt; ○オーケストラの豊かな響きを感じ取ることができるよう、楽器(コントラバス・フルート・オーボエ)の音色と曲想とのかかわりを主体的に聴く教材。</p>	<p>楽器の音色と曲想とのかかわりを意識して、聴き取っている。</p>

[譜例①]

代表生徒                  全員                  (以降同様)

マイ マイ マーイ    マイ マイ マーイ    ~

[譜例②]

リズム1

リズム2

リズム3

### 3 ミュージックエッセンス

「ミュージックエッセンス」は、題材の目標にそって音楽の諸要素を感受する能力を高めるため、教材の開発を行うことである。授業における具体例として、次の表にまとめた。

音楽の諸要素を感受する能力を高める教材の開発(例)	身に付けたい力
合唱劇に取り組む際、教材の効果音（波の音）を聴いて、自由にイメージを思いめぐらすことによって、生徒が自ら表現力の向上を図ることを目指した教材。〔カード例 〕	自己のイメージを膨らませ表現を工夫する。
三味線に親しむ学習において、教材「水の流れ」の掛け合いによって、三味線のよさやおもしろさに気付く教材。	和楽器の音の特性を感じ取る。
お気に入りの詩に音楽をつける学習では、ホルスト作曲「木星」の冒頭を聴いて、豊かなイメージ広げる手段としての教材。〔カード例 〕	詩の内容に豊かなイメージをもつ。
旋律の変化の組み合わせの働きによる曲想とのかかわりを意識して聴くことができるような教材「ブルタバ」の合唱版を聴く。	音色と曲想とのかかわりを感じ取る。

〔カード例 〕

イメージの彫刻		...曲...:.....	
授業の中で聴いた音（音楽）に、どんなイメージをもちましたか？ あまり考え込まずに、ぱっと思い浮かんだことを記録してみましょう。 最後に、なぜ「彫刻」なのかを、みんなで考えましょう。			
月 日	[ 聴いたもの ]		
	何が見えましたか		
校 時	どんなことばをイメージしましたか	自由らん	

〔カード例 〕

ミュージック エッセンス		月	日 ( )
今日の内容・・・	イメージをふくらまそう		
曲を聴いて、どのような情景がうかんだかな。	また、なぜそう感じたのか理由も考えてみよう。		
いつ		どこで	
だれが		何をしている	
なぜそう感じたのかな？			
今日 聴いた曲	-----		

実践事例 1	多様な表現を取り入れた合唱の指導
--------	------------------

1 題材名 <合唱劇に取り組もう ~表現力の向上を目指して~>

2 題材の目標

- (1) 歌詞の内容や曲想を感じ取って、表現を工夫する。
- (2) 各声部の役割を感じ取り、旋律のかかわりや全体の響きに気を付けて合唱する。
- (3) 簡単な身体表現や語りなどを工夫して、より豊かな表現に気を付けて合唱する。

3 題材設定の理由

本校では、歌唱領域において一昨年度より、全校合唱、他学年との合同合唱、全女声や全男声による斉唱、合唱等に取り組んでおり、無伴奏による楽曲も積極的に取り入れている。

その結果、生徒は、意欲的に授業に取り組む様子が見られるようになるとともに、他学年との切磋琢磨が生まれ、向上したいという気持ちが強くなってきた。また、呼吸法、発声法などへの意識が高くなり、発達段階に応じたハーモニー感も身に付きつつある。今年度はさらに発展させ、歌詞のイメージを表現する力の育成を目指したと考えた。

そこで、体の動きを伴う表現を取り入れた合唱に取り組むことで、より豊かな歌詞へのイメージをもつことができるのではないかと考え、合唱劇に取り組むこととした。ここでの合唱劇とは、同じテーマによる合唱曲を数曲組み合わせ、曲の間に語りを入れて場面のイメージに合わせて進行していく構想のものである。体の動きは「演技」ではなく、「音楽の流れに合わせて手を動かす」「情景を想像しながら視線を遠くに向ける」「全体の隊形を移動する」など、生徒が簡単に身体表現に取り組むことができる内容にとどめ、音楽的な表現を重視した取り組みとしていくものである。

以上のように、全校の授業を通して、それぞれの学年の学習経験を基盤として生まれるイメージを大切にしつつ、より豊かな表現力を目指したいと考え、この題材を設定した。

4 指導計画(8時間扱～11時間扱い)

第1時(各曲2～3時間扱い) = 本時 =

各声部の音程を正しく歌い、ハーモニーの美しさを感じ取る。

各声部の役割や他の声部とのかかわり方や全体の響きを感じ取って、イメージをもつ。

第2時(各曲3時間扱い)

調べ学習を通して、歌詞の意味や背景にある情景や心情を感じ取って、音楽表現とのかかわりを考えるとともに自己のイメージを広げる。

第3時(各曲3～5時間扱い)

生徒自ら歌詞にあった身体表現について考え、他の声部とのかかわりや全体の響きに気を付けて合唱表現する。

## 5 題材の評価規準

- (1) 各声部の特徴と役割に関心を持ち、歌詞の意味により、自己のイメージ膨らませて、合唱表現に意欲的に取り組んでいる。 (音楽への関心・意欲・態度)
- (2) 他の声部とのかかわりや全体の響きを感じ取り、合唱表現を工夫している。[第1学年] (音楽的な感受や表現の工夫)
- (3) 楽曲の全体像をとらえ、曲想、言葉、身体の動きを考え、他の声部とのかかわりや全体の響きに気を付けて合唱表現する技能を身に付けている。 (表現の技能)

## 6 学習指導の展開

- (1) 本時の目標 (教材「さとうきび畑」)

声部の役割に興味を持ち、他の声部とのかかわりを感じとって自分の声部を歌う。

- (2) 展開

指 導 内 容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 評 価
自分の声部と 他の声部との かかわり。	ミュージックポイントへの意識	ミュージックポイントを明確にし、一人一人が目標をもつ。 指揮者に注目する。
ミュージックトレーニング		
声部の役割に興味をもつ。	ハーモニーによるあいさつ 腹筋を使った練習 「マイマイマイ」	音に集中させ、各声部の役割が、声の音色や組合せによることに気付かせる。 各パートより1名ずつ前に出て発表後、生徒のよいところや頑張っているところをほめる。 生徒の歌いやすい高さを配慮して、発表できるように指導する。
ミュージックポイント		
他の声部とのかかわりを感じ取って、自分の声部を歌う。	合唱 パート練習  音程の確認	他の声部を意識できるよう伴奏を工夫する。 生徒自ら練習できるよう伴奏テープを作成する。 他の声部の音と音とのかかわりを感じて、自分の声部を歌っている。 変声期等で、正しい音程で歌うことができない生徒に配慮する。授業内外における声かけや個人指導、合唱隊形における並び順の工夫など、必要に応じた指導を行う。
ミュージックエッセンス		
イメージを膨らませる。 まとめ	CDの冒頭部分の鑑賞 合唱	音楽を聞いて感じた自らのイメージと音楽の諸要素を結び付け、次時への学習に生かすようにする。 ミュージックポイントを確認し、本時の目標を意識して合唱できるよう言葉かけをする。

### (3) 評価

他の声部の音と音とのかかわりを感じて、自分の声部を歌っている。

## 7 実践のまとめ

### (1) ミュージックポイントについて

検証授業では、「正しい音程」から「他の声部の音と音とのかかわりを感じて、ハーモニーの美しさを感じとる」ことにつなげていくことを目標とした。全パートを同じペースで学習を進めることができず、男声は音程の確認に時間がかかってしまった。しかし、ミュージックポイントにおいて、他の声部を意識できるよう伴奏や指導の工夫により、ソプラノとアルトが音と音との重なりを感じ取ることができた。さらに、全パートについては、段階的にハーモニーを意識し、感じ取る事ができるよう、よりいっそう指導の工夫をしたい。

### (2) ミュージックトレーニングについて

合唱への取り組みにあたって、基礎的な表現の能力は欠かせない。そこでここでは、限られた時間を有効に使うため、ハーモニー、呼吸法、自己の歌声の3点について、常に、音楽の諸要素を感受する能力に繋げて指導できるよう、教材を工夫した。

毎時間10分間ではあるが、継続することで声の出し方や強弱や音色に対する表現の意識が大きく変わり、最後の合唱をまとめる段階では、簡単な助言だけで歌い方を工夫しようとする生徒の姿が見ることができるようになった。

### (3) ミュージックエッセンスについて

生徒が、歌詞の内容や曲想を感じ取って、合唱表現を工夫することができるようになるためには、歌詞の意味、背景にある情景や心情に気を付け、自己のイメージを膨らませて表現に生かしていくことが重要である。そこで、ワークシートを「イメージの彫刻」と題し、それぞれが記録した風景などを彫刻の材料(木や粘土など)に置きかえ、それを彫塑の作業のように足したり、削ったりしながら、作品(楽曲のイメージ)を作り上げるという取り組みを考えた。聴く音は素材であったり、伴奏の一部であったりと様々で、生徒の書いた内容は、個々に自由で多岐にわたる発想のものであった。それぞれの生徒が抱いた自由なイメージを認めつつ、音楽の諸要素を感受する能力に繋げるため、音色やリズム、速度や強弱とのかかわりを中心に気付かせて、教材の開発を行い授業進めていった。今後、感性をじっくりとはぐくみ磨いていくことができるようさらなる指導の改善を行っていきたい。

### (4) 考察

本題材によって、身体表現や語りを取り入れ、歌詞へのイメージをふくらませより豊かな音楽の表現力を身に付けることを目指して、合唱劇を取り上げた。この学習は、劇としての作品を仕上げることを目標にするのではなく、多様な表現を取り入れることで、そのことが音楽の諸要素を感受する能力の育成とどのようにつながっていくのかを目標に、指導をこころがけた。この取り組みの成果は、「ここでなぜフォルテなのか、クレシェンドなのか。」など、楽譜上の指示に対して歌詞の意味からイメージを膨らませ、他の声部の音とのかかわりに気付き、生徒が自ら考え、「もっとこうやって演奏したい」という姿勢が出てくるようになったことである。この意欲は音楽を楽しんでいることに結びつくことであり、音楽を愛好する心情をもつ一つのきっかけになったと考える。今後、さらなる研究を進めていきたい。

実践事例 2	ゲストティーチャーと取り組む和楽器の指導
--------	----------------------

### 1 題材名 < 日本文化 ～三味線に親しもう～ >

#### 2 題材の目標

- (1) 三味線の美しい音色やリズムなど音とのかかわりを感じ取って、表現を工夫する。
- (2) 興味をもって、三味線の基礎的な奏法を身に付ける。

#### 3 題材設定の理由

本校では和楽器の指導において、和太鼓を中心に取り組んできた。限られた授業時数の中で和楽器を授業に取り入れていくには、和太鼓(打楽器)が扱いやすく、三味線(弦楽器)などは難しく感じていた。しかし、昨年度の周年行事で三味線合奏の有志を募り、専門家の指導を取り入れた練習を重ねた結果、生徒達の反応がとてもよく短期間に想像以上の上達が見られた。そこで、教師の解釈や教材研究不足によって指導の幅を狭めてしまうのではなく、柔軟性をもって、様々な楽器を通して生徒たちに和楽器に親しんでもらおうと、今年度から三味線も題材として取り入れた。

第1学年においての器楽の授業は初めてであるが、生徒たちは歌唱の授業を通して素直に音楽的な事柄を吸収しているため、向上心をもっておおらかに自己表現ができている。日本文化である三味線に触れることによって和楽器に親しみをもち、幅広い音楽表現を身に付けさせたいと考え、この題材を設定した。

#### 4 指導計画(2時間扱い)

第1時 = 本時 =

三味線に興味をもって取り組み、音の特性を感じ取って基礎的な奏法を身に付ける。

第2時

三味線の美しい音色やリズムなど音とのかかわりを感じ取って、表現を工夫する。

#### 5 題材の評価規準

- (1) 三味線の基礎的な奏法に興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。  
(音楽への関心・意欲・態度)
- (2) 三味線の特性や奏法を感じ取って、リズムや音色の変化に気を付けて表現を工夫している。  
(音楽的な感受や表現の工夫)
- (3) 三味線の基礎的な奏法や美しい音色に気を付けて表現する技能を身に付けている。  
(表現の技能)

#### 6 学習指導の展開

- (1) 本時の目標 (教材「水の流れ」)

三味線に興味をもって取り組み、音の特性を感じ取って基礎的な奏法を身に付ける。

(2) 展開

指 導 内 容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 評 価
<p>基礎的な奏法への意欲。</p>	<p>ミュージックポイントへの意識</p>	<p>基礎的な奏法への意欲をもつことができるよう、ミュージックポイントが分かるよう指導する。</p>
<p>ミュージックトレーニング</p>		
<p>三味線の音の特性について</p>	<p>三味線の音を聴きあてる</p>	<p>三味線の音の特性を感じ取って、美しい音色に気付くためのCDで3種類の和楽器の音を聴くことができる教材の工夫を行う。</p>
<p>ミュージックポイント</p>		
<p>三味線の美しい音色に気を付けて、基礎的な奏法を身に付ける。</p>	<p>座り方・滑り止め・指かけ・撥の持ち方の練習</p> <p>三味線の置き方・糸巻側の高さ・傾け方・右手の支えの練習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ の糸を同時に弾く練習</li> </ul> <p>リズム練習</p> <p>掛け合い練習</p> <p>の糸でスクイ・ハジキの奏法練習</p>	<p>美しい音に気付いたり、1つ1つ丁寧に、音楽の諸要素を確認できる言葉かけを行う。</p> <p>ゲストティーチャーとの連携を図り、教師が授業を進めていく。</p> <p>自分の音を確認しながら、美しい音に気付かせるよう助言する。</p> <p>基本姿勢などは繰り返し確認し、意識する。</p> <p>3・2・1のリズムを楽譜に頼る覚え方ではなく、自ら聴いて演奏するよう指導する。</p> <p>それぞれのリズムが何回繰り返されているかを、確認をして音楽の諸要素が感受できるよう、指導する。</p> <p>教師との掛け合いで、リズムの確認をする。</p> <p>口伝で確認しながら練習する。</p> <p>何回も繰り返されている旋律のおもしろさを感じ取るよう助言する。</p> <p>三味線の美しい音色を感じ取って、三味線の基本的な奏法を身に付けている。</p>
<p>ミュージックエッセンス</p>		
<p>三味線の音の特性</p>	<p>ゲストティーチャーの模範演奏を聴く</p>	<p>演奏に集中できる落ち着いた雰囲気を作る。</p> <p>三味線のもつ特性を生かした音色の美しさを</p>

まとめ	教師とかけあいの形で、すべて通して演奏。ミュージックポイントの発表	感じ取り、表現に生かすことができるよう指導する。挙手により発表する。
-----	-----------------------------------	------------------------------------

### (3) 評価

三味線の美しい音色を感じて、基礎的な奏法を身に付けている。

## 7 実践のまとめ

### (1) ミュージックポイントについて

今回の教材は旋律を演奏するものではなく、リズムや の糸のみを使っての奏法練習によって「水の流れ」を表現しているものである。この教材により、生徒たちは三味線の特徴を感じ取りながら、意欲的に演奏に取り組むことができた。また、その都度、学習の目標を理解できるよう学習のねらいをひとつにしぼって、音楽の諸要素を感受できるような指導を毎時間行ってきた。その結果、生徒が何を学ぶのかを十分理解し、生徒同士で互いに音を聴き合ったり、音に集中して、生徒自らよりよい音を見付けようとしたり、主体的に取り組んで表現の工夫につながっていった。

三味線指導においては、調弦の微調整が非常に困難であるにもかかわらず、三味線の音色の美しさやその魅力とおもしろさを体験できるよう、主体的に演奏に取り組んでいる生徒の姿を見ることができた。今後も、何を身に付けるための学習であるのか、毎時間、教師が生徒の実態に応じて指導計画を作成していく。

### (2) ミュージックトレーニングについて

「箏」、「三味線」、「尺八」の3種類のから、三味線の特徴である美しい音色を聴き分けるよう教材を工夫した。また、音楽の諸要素を感受する能力として、聴こえた音がどのようなかを発表してもらい、音楽の諸要素と結び付けて指導していったため、生徒は音によく集中して主体的に聴く姿勢がはぐくまれていった。「ミュージックトレーニング」は、正解することが目的ではなく、音に集中して、自分の感じたことをしっかりと表現していくことを生徒に伝え、毎時間、継続的に行っていった。

### (3) ミュージックエッセンスについて

専門家の演奏を聴くという体験は大切である。生徒たちは、ゲストティチャーの演奏をとっても興味・関心をもって聴いており、強弱や速度、音色の違いやおもしろさに感動していた。三味線に親しむということだけではなく、三味線の音色やリズムの特徴を生かして演奏していくなど、音楽の諸要素を感受する能力を高め、今後も「楽しさ」につながる教材をさらに開発していく。

### (4) 考察

今回の授業では、「街の先生教室」の人材として、三味線普及の会の協力を得ることができた。このことにより、生徒全員が三味線を持つことができた。また、ゲストティーチャー4名との連携により、音楽の諸要素を感受する能力を高め、「楽しい音楽学習」を作り出す1つの方法を見出すことができた。今後、さらに、楽しい音楽学習を目指すために、深みのある授業の工夫や環境の整備が重要である。

## 1 題材名 お気に入りの詩に音楽をつけよう

### 2 題材の目標

- (1) 自分の選んだ詩にあった、旋律づくりに意欲的に取り組む。
- (2) 音色、リズム、旋律、和声などや音楽の形式とのかかわり合いを感じ取って、旋律を工夫する。

### 3 題材設定の理由

中学校学習指導要領音楽科の第1学年の目標を達成するために、創作活動に取り組ませたいと考えた。さらに、「楽しい音楽学習」について、アンケートの中で少数ではあったが「音楽をつくって表現したとき」という回答もあった。「楽しい音楽学習」を目指すためには、生徒一人一人が主体的に音楽活動にかかわることが重要であり、創作活動の一つである作曲に取り組み、生徒自らの思いを音楽で表現することができる音楽活動を目指したいと考えた。

本校は今年度、文部科学省の「国語力向上」の研究指定校である。その一環として国語科の「詩の鑑賞」との連携を図り、自ら選択した詩をより深く鑑賞させるとともに、詩の内容に豊かなイメージや共感をもったり、詩の言葉のもつ特性を感じ取って、創作表現をさせたいと考え、題材「お気に入りの詩に音楽をつけよう」を設定した。創作活動を通して、音楽の諸要素を感受する能力を高め、基礎的な能力を確実に身に付けるとともに、生徒一人一人が興味・関心をもって取り組むことのできるパソコンを活用して取り組むこととした。

### 4 指導計画（6時間扱い）

#### 第1時（2時間扱い）

詩の鑑賞と作曲したい詩の選択をする。（国語科との連携による取り組み）

詩の言葉のもつリズムやアクセントを感じ取る。

#### 第2時（3時間扱い）

選択した詩の言葉のイメージをふくらませて、リズムや旋律、音楽の形式とのかかわり合いを感じ取って旋律を作る。＝本時＝

旋律と伴奏パターン、音色を組み合わせ曲を完成させる。

#### 第3時（1時間扱い）

作り上げた旋律を互いに発表し、詩の言葉のもつイメージと作った旋律のかかわり合いを感じ取る。

### 5 題材の評価規準

- (1) 詩の内容から豊かなイメージをふくらませ、言葉のもつ特性に興味をもつ。

(音楽への関心・意欲・態度)

(2) 選択した詩の言葉のイメージをふくらませて、リズムや旋律、音楽の形式とのかかわり合いを感じ取って旋律を工夫する。(音楽的な感受や表現の工夫)

(3) 詩の言葉のもつ自然なリズムやアクセントに気を付けて、旋律を作る技能を身に付けている。(表現の技能)

## 6 学習指導の展開

### (1) 本時の目標

音楽の形式(AA'BA'の二部形式)と音とのかかわりを感じ取って、意欲的に旋律をつくる。

### (2) 展開

指導内容	学習活動	指導上の留意点 評価
音楽の形式と音とのかかわり	ミュージックポイントへの意識	本時の学習内容を理解し、音楽の形式と音とのかかわり興味をもつように言葉かけをする。
<b>ミュージックトレーニング</b>		
リズムと旋律とのかかわりを感じ取っている	リズムの聴音	リズムと旋律とのかかわりを感じ取るための第一段階として、生徒が意欲的に取り組むことができるよう、リズムの聴音のオリジナルの教材を工夫(8拍分のリズムパターン)した。 リズム聴取の答えを、必ず板書して、手拍子や歌って指導した。
<b>ミュージックポイント</b>		
音楽の形式(二部形式)と音とのかかわりを感じ取って、旋律をつくっている	パソコンによる旋律の創作	音楽の形式(二部形式)と音とのかかわりを感じ取って、旋律をつくることができるように、二部形式 AA'BA'で詩のイメージにあったオリジナル伴奏パターンの教材を工夫した。 音楽の形式(AA'BA'の二部形式)と音とのかかわりを感じ取って、旋律をつくっている。完成した生徒についてはよりよい作品を作るよう助言する。
<b>ミュージックエッセンス</b>		
イメージを膨らませるための、音と音とのかかわりに気付く。	曲の一部分を聴いて風景や情景の想像	イメージを膨らませるための、音と音とのかかわりに気付く風景や情景を想像できるように教材を開発した。

(3) 評価

音楽の形式(AA'BA'の二部形式)と音とのかかわりを感じ取って、旋律をつくっている。

7 実践のまとめ

本実践は、短時間でしかも一人一人の発想を最大限に生かせるようにと、パソコンを活用して創作活動を行うこととした。題材全体を通して、次の成果と課題が挙げられる。

(1) ミュージックポイントについて

45時間という限られた年間授業時数の中で、創作活動を行う指導の工夫の一つとして、二部形式(AA'BA')の単純な形式で作ることとした。また、4パターンのオリジナルコード進行を用意し、自分の選んだ詩のイメージに合うものを選択した。

毎時間、学習のねらいを1つに絞り、生徒自らが学習に取り組むことができるよう、指導を積み重ねていった。課題としては、二部形式にとらわれることなく生徒が自由にコード進行を求める生徒への対応である。今後、さらに個々への生徒に対応できるよう改善していく。

(2) ミュージックトレーニングについて

それぞれの生徒によって、音符や休符の認識が異なっているため、積み重ねる学習として、リズム聴音に取り組むことにした。四分の四拍子の2小節(8拍分)のリズムを聴き取り、書き取る活動を行った。ほとんどの生徒が書き取れるようになった。また、生徒の音に対する集中力が高まるためにも効果があった。今後の課題としては、リズム聴音だけではなく、さらに音楽の基礎的な能力を高めていくための指導の工夫を行っていく。

(3) ミュージックエッセンスについて

音楽の諸要素の働きを感じ取ると同時に、それによって自分の内面に生まれる様々なイメージや感情を味わう学習の一つとして、毎時間、題材に迫るため、楽曲の一部分を取り出して聴かせ、そこからどのような情景が浮かぶのかを想像させる活動を取り入れた。「オーセの死」「道化師の踊り」「木星～《惑星》から」「霧のレイクルーズ」など音の構成や速度から考えやすいものを選択した。生徒が自分の中に新しいイメージや感情が生まれたことを意識しやすいように「いつ・どこで・だれが・何をしている」様子が浮かんだのかを簡潔に書けるワークシートなどの教材を開発した。

生徒の想像は多岐にわたり、曲によっていろいろな想像をすることができるようになった。課題としては、題材に応じた様々な教材を開発するための情報をいかに多く収集するかということである。

(4) 考察

音楽に対する興味・関心を高めるためには、生徒一人一人が楽しいと思うことができるように授業を展開していくことが課題であった。歌うことや楽器を演奏することについて、生徒自らが、自己存在感を実現できるものを展開していくため、オリジナル教材の工夫や開発、パソコンの導入などを行うこととした。その結果、生徒が生き生きと音楽づくりをする活動が展開された。また、自由に生徒自身の思う音楽を主体的につくることによって、更に楽しさが倍増していった。

## 1 題材名 オーケストラの響き ～いろいろな音楽形態との比較～

## 2 題材の目標

- (1) 世界の諸民族の音楽における楽器の音色に興味をもって聴く。
- (2) 楽器の音色やリズム、旋律を含む音と音のかかわり合い、形式などの働きによる曲想を感じ取って聴く。

## 3 題材設定の理由

1学期は表現において、歌唱や器楽(アルトリコーダー)、鑑賞に取り組んだが、2学期は合唱コンクールに向けての初めての取り組みがあった。合唱において、試行錯誤しながら主体的に生徒が取り組むことによって、発声や呼吸について学びながら声を出そうという意識が高まっていった。そこで、多様な音楽活動により、生徒が楽しいと感じる音楽活動を推進するため鑑賞活動を行うこととした。

楽曲「ブルタバ」は、中学生にとって親しみやすく、標題を手がかりとしてイメージを広げることができる教材である。楽器の音色やリズム、旋律を含む音と音のかかわり合いを感じ取り、楽器の編成やメロディー、リズムなど、楽器の音色の効果的な表現を考えたりする鑑賞の活動を通して、音楽を聴く楽しさを味わわせたいと考え、この題材を設定した。

## 4 指導計画(2時間扱い)

第1時 = 本時 =

楽器の音色やリズム、旋律を含む音と音のかかわり合い、形式などの働きによる曲想を感じ取って聴く。

第2時

世界の諸民族の音楽にみられる楽器の音色に興味をもち、音色とその変化の組合せに気付いて聴く。

## 5 題材の評価規準

- (1) 世界の諸民族の楽器の音色に興味をもったり、楽器の音色やリズム、旋律を含む音と音のかかわり合い、形式などの働きに興味をもって聴いている。

(音楽への関心・意欲・態度)

- (2) 楽器の音色やリズム、旋律を含む音と音のかかわり合い、形式などの働きによる曲想を感じ取っている。

(音楽的な感受・工夫)

- (3) 楽器の音色やリズム、旋律の変化の組み合わせの働きと曲想とのかかわりを意識して、楽曲を聴き取っている。

(鑑賞の能力)

## 6 学習指導の展開

### (1) 本時の目標 (教材「ブルタバ」)

楽器の音色やリズム、旋律の変化の組み合わせの働きによる曲想とのかかわりを意識して、楽曲を聴く。

### (2) 展開

指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価
<b>ミュージックトレーニング</b>			
楽器の音色やリズムの組み合わせ	楽器当てクイズ	楽器の音色やリズム、旋律の変化の組み合わせの働きに気付くことができるよう、音楽を聴いて楽器を答える教材を工夫した。	
<b>ミュージックポイント</b>			
旋律の変化と曲想とのかかわりを意識して聴く	ワークシートを記入  映像を見る 意見発表	旋律の変化の組み合わせの働きと曲想とのかかわりを意識して楽曲「ブルタバ」聴き取ることができるよう演奏形態の違う演奏により、指導を工夫する。 ＜演奏形態の違う演奏＞ ピアノ4手、オカリナ・シンセサイザー、サヌカイト、弦楽器、オーケストラによる演奏。 楽器の音色や感じた音楽の諸要素と川のイメージを繋げることができるよう助言する。 ブルタバ川の映像を見てどの演奏形態が合うか考えさせる。	
<b>ミュージックエッセンス</b>			
旋律の変化の組み合わせの働きによる曲想とのかかわりを意識して聴く	合唱版を聴く  ブルタバを視聴	旋律の変化の組み合わせの働きによる曲想とのかかわりを意識して聴くことができるよう、教材を開発した。 標題を教科書で確認し、生徒一人一人のイメージを大切にしながら視聴するよう声がけをする。 楽器の音色やリズム、旋律の変化の組み合わせによる働きと曲想とのかかわりを意識して、楽曲を聴いている。	

### (3) 本時の評価

楽器の音色やリズム、旋律の変化の組み合わせによる働きと曲想とのかかわりを意識して、楽曲を聴いている。

## 7 実践のまとめ

### (1) ミュージックポイントについて

今回の授業では、楽器の音色やリズム、旋律の変化の組み合わせによる働きと曲想とのかかわりを意識して楽曲を聴くことが目標であった。ブルタバ川を表現するため、なぜ作曲者がオーケストラという演奏形態を選んだのかということから、アプローチすることを考えて、指導計画を作成した。

そこでいろいろな演奏形態の「ブルタバ」を聴かせ、生徒は珍しい楽器や聞いたことのない音色に興味を示し、同じ曲なのに演奏形態によってこんなにもイメージが変わることに驚ろきと感動をもって聴いていた。それは、学習のねらいを1つにし、楽器の音色やリズム、旋律の変化の組み合わせによる働きを常に意識して、生徒が聴いていたからである。今後も、楽器の特徴に気付くことができたり、標題ごとの演奏を聴くことができる、教材の工夫が必要であると考えられる。

### (2) ミュージックトレーニングについて

オーケストラの演奏を聴くに当たり、それぞれの楽器の音色をあらかじめ理解させたいと考え、毎時間、楽器の音色や旋律の特徴の働きを感じ取ることができる、楽器あてクイズを行った。生徒は意欲的に取り組んでおり、音を意識して聴くことが大切だと指導を継続した結果、「分かるようになった」と感じる生徒も増えて、リズムや音色を曲想や楽曲の雰囲気結び付けて、集中して聴くことができるようになった。

### (3) ミュージックエッセンスについて

旋律の変化の組み合わせの働きによる曲想とのかかわりを意識して聴くことができるよう、「ブルタバ」合唱に編曲したものを教材として鑑賞した。これは、オーケストラの豊かな響きを味わうためには、同じメロディーに歌詞を付けて表現を感じ取ることによって、より深く鑑賞することができると考えたからである。生徒は合唱コンクールが終わったばかりであったため、声の響きやハーモニーの美しさを感じ取って聴いており、生徒自ら楽器のリズムや音色、曲想や楽曲の雰囲気の違いによる、表現方法のそれぞれに違いがあることを聴き取ることができた。

### (4) 考察

鑑賞の授業においては、どのような教材をどのように展開していくかによって、生徒が学習のねらいを達成できるかどうか大きな影響があると考えられる。今回の授業では、今まで聴いたことのある楽器から珍しい楽器、様々な演奏形態などを選んだことにより、生徒が興味をもって学習に取り組むことができた。同じ目標でも生徒の実態や音楽経験などによりアプローチの仕方が違って来る。限りある授業時間の中では、生徒の様子を把握して教材研究を行い、十分な準備をすることが大切である。アンケートの結果から、生徒自らが気付いたり、知らないことを体験することで生徒が音楽活動を「楽しかった」と感じるようになった。

今後、鑑賞の授業において、演奏形態や民族音楽、日本の伝統音楽など教材を開発するとともに、生徒の思いや願いを生かして、授業を展開させたり、器楽や歌唱活動とタイアップしたりして、生徒が主体的に活動できる場面を増やすことを考えていく。

## 研究の成果と今後の課題

生徒が生涯にわたって個性豊かに生きるための基盤となる音楽学習の充実を図るために研究を進めてきた。生涯にわたって音楽を愛好する心情を育てるため最も基本となる第1学年を対象に「一人一人に応じた楽しい音楽学習」を目指し、基礎研究と検証授業を通して、3つの視点から研究を行った。本研究の成果と今後の課題は次のとおりである。

### 1 研究の成果

#### (1) 指導方法の工夫

「ミュージックポイント」では、本時のねらいを生徒自らが考え、学習を深めるという形式を試みた。教師から授業冒頭でねらいを提示するのではなく、授業内で「生徒自身が考えていく」方法である。生徒は自分の取り組みの過程を振り返りながら本時に学習したことをねらいとして明確に心に刻むことができたと考える。また、45時間という枠組みの中で、生徒自身が楽しさを感じ取るための幅広い音楽活動を取り入れた。具体的には「多様な表現を取り入れた合唱の指導」、「ゲストティーチャーと取り組む和楽器の指導」、「パソコンを活用した創作の指導」、「曲想の変化を感じ取って聴く鑑賞の指導」などがあり、生徒自らが音楽にかかわり、楽しく音楽活動に取り組む効果的な授業であった。

#### (2) 基礎的な能力を養うための教材の工夫

本研究の授業において、毎時間、短時間に行った「ミュージックトレーニング」は、継続して実施することにより、音楽学習に必要な身に付けたい力を積み重ねて学習することができ、基礎的な能力を養うことができた。例えば、表現においては、発声練習を楽しみながら、かつ、生徒一人一人の身に付いた力を生かしながら学習に取り組むことのできる教材を工夫した。リズム聴音は、詩の言葉のもつ特徴に気付いたり、リズムや旋律の音と音とのかかわりによる働きを感じ取ったりしながら創作活動に結び付けることができた。鑑賞の分野では様々な形態の楽曲から、イメージをふくらませて豊かな響きを聴き取ることができた。

#### (3) 音楽の諸要素を感受する能力を高めるための教材の開発である。

生涯にわたって音楽を愛好する心情を育てるためには、生徒自身の音楽の諸要素を感受する能力を高め、音楽の楽しさを味わうことが必要である。そのために、「ミュージックエッセンス」として、音楽の諸要素を感受する能力を高めるための教材を開発した。その結果、生徒が充実感、満足感を味わい、題材の目標に即した学習活動を実施することができ、音楽学習を深めようとする姿勢、意欲的に活動する姿勢を見ることができるようになった。

以上、3つの視点から研究を行うことにより「楽しい音楽活動」を実践することができたと考える。意欲的に音楽を表現し、生き生きと創作に取り組む、目を輝かせ鑑賞する生徒、そこには、楽しく音楽学習に取り組んでいる変容した生徒の姿を見ることができた。

### 2 今後の課題

本研究では、音楽科における身に付けたい力をはぐくむため、音楽の諸要素を感受する能力の育成に取り組んできた。今後は、45時間という限られた時間の中でより一層の指導計画の工夫と充実が必要である。日々、変容する生徒の実態を把握し、新たな課題を見だし、その課題解決に向けて、教師自身が多様な音楽を取り入れることが重要である。生徒一人一人が楽しいと感じる音楽学習のさらなる充実を目指して、今後も、研究を深めていきたい。

平成16年度 教育研究員名簿（ 音楽 ）

区市町村名	学 校 名	氏 名
江 東 区	深川第六中学校	武石久美子
目 黒 区	第 八 中 学 校	久保田伸子
大 田 区	大森第七中学校	有馬優起子
荒 川 区	第 九 中 学 校	佐藤仁美
江戸川区	小松川第一中学校	田中愛子
八王子市	第 三 中 学 校	梅木靖子
清 瀬 市	清瀬第五中学校	螺良啓介
稲 城 市	稲城第六中学校	小森谷かおり
新 島 村	式根島中学校	羽毛田昌枝

世話人 副世話人

担当 東京都教職員研修センター指導主事 小宮 恭子

平成16年度教育研究員研究報告書

〔 東京都教育委員会印刷物登録  
平成16年度 第21号  
(東京都教育委員会主要刊行物) 〕

平成17年1月24日

編集・発行 東京都教職員研修センター  
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14  
電話番号 03-5434-1974

印刷会社名 鮮明堂印刷株式会社